



次世代  
Okushin  
がんプロ

次世代北信がんプロ オンコロジーセミナー

# 第16回

Next generation Hokushin cancer professional

大学院生・がん診療連携拠点病院  
地域がん診療推進病院等の  
医師・薬剤師・看護師・診療放射線技師  
臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

# Oncology Seminar

## 症 例

### 「急激な下肢麻痺を契機に診断されたALK融合 遺伝子陽性の進行肺癌の一例」

20代男性（現役自衛隊員）が両下肢麻痺を主訴に救急搬送。胸部CTで左大量胸水・縦隔腫瘍・胸椎転移を認め、緊急神経除圧術（椎弓切除+内固定術）を施行した。術後HE染色にて肺腺癌と確定診断され、そこからわずか2日後にALK D5F3 CDx強陽性が確認され即日Alectinibを導入した（病理部との緊密な連携による迅速対応）。若年患者であり家族を含めた精神ケアおよび今後の妊孕性温存について緩和ケアチームが早期に介入。Alectinib開始後、約4ヶ月で胸水消失・腫瘍著明縮小（PR）を達成。積極的なりハビリにより神経学的機能も回復し、自衛隊への復職を果たした。

金沢大学附属病院 呼吸器内科

岩淵 佑先生

## 特別講演

### 「研究者・医師に必要な創薬スタート アップ概論」

日本のアカデミアは、質の高い基礎研究から生まれた革新性・新規性を有する技術や、質の高い人材の宝の山です。しかし、なかなか海外をリードする新規技術開発にはつながらず、海外企業が実用化し富を生み出している現状があります。特に医療分野では、日本発のサイエンスが海外にて社会的貢献度の高い治療薬の開発に繋がりが、日本医療では大きな貿易赤字になっています。サイエンスを尖らせる基礎研究者や医師が、おおよそ14年の長き年月を要する創薬プロセスのEnd to Endを知る事・担う事には、元より無理があります。研究者・医師の中から起業を目指すアントレプレナーを育成する事も重要な課題ですが、それより、基礎研究・創薬応用研究・臨床研究を経て、患者さんに届ける創薬プロセスの構築を如何に行うかを知ること実施することが重要です。本日は、研究者・医師に必要な創薬スタートアップの考え方について皆様と共に考えたいと思います。

ニュートンバイオキャピタル パートナーズ  
開発・薬事責任者  
日本医療研究開発機構 創薬ベンチャーエコ  
システム 強化事業 プログラム オフィサー

和田 道彦 先生



## 開催日時

2026.5.21 木  
18:00-19:30

(ZOOMによるオンライン開催)

参加希望者は5月20日(水)までに  
下記のURLまたはQRコードから  
お申込ください。

## 【参加申込フォーム】



<https://ws.formzu.net/fgen/S824975857/>

## 問い合わせ先

次世代北信がんプロ事務局  
〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1  
TEL : 076 (265) 2888  
E-mail : gpro@adm.kanazawa-u.ac.jp  
HP : <https://gan-pro.net>